バリアフリームーブメント Vol.15

“いざ”じゃないとき知る知識！
“いざ”というとき引き出す知識！

バリアフリーな社会を生きるため、必要なことを先取りしよう！

〜今回のテーマ〜 もっと知りたい補助犬のこと

「ビール缶やチューハイの上部についている点字（凸点）は何だろう?」、「牛乳パックの上に付いている切り欠き（切りこみ）は何のため?」、「シャンプーのギザギザは何でついているの?」などなど。そんな日常生活で感じる”何?“には、バリアフリーに配慮されたモノがある。

既存の製品をより多くの人が使いやすいようにしてくれるモノ、今まで使いにくかったものを使いやすくするためのモノ等、これからどんどん増えてくるバリアフリー化された製品や商品を紹介していきたいと思う。

（森川 美和）

補助犬の受け入れはどうしたらいいの？ 事業者向け『補助犬同伴のお客様への応対』マニュアル

2002年10月1日より身体障害者補助犬法が施行され、すべての公共施設、交通機関で、補助犬の同伴者の受け入れが義務付けられた。03年10月からは、個人店舗やデパート、宿泊施設、映画館やレジャー施設など、すべての民間施設でも義務付けられ、日常生活の中で補助犬使用者や補助犬に出会う機会は益々増えてくると思う。

さて法律が施行されてから、今まで障害のある人や補助犬と触れ合ったことのない方たちはどのように配慮してよいか、マナーや対応に戸惑うところでもある。

そこで、特定非営利活動法人日本介助犬アカデミーは、身体障害者補助犬とはどのような犬のことを呼ぶのか、補助犬を受け入れるためにはどのようにすればよいか等、補助犬使用者への対応等を説明するために『補助犬受け入れマニュアル〈事業者編〉補助犬同伴のお客様への応対 盲導犬／聴導犬／介助犬』（写真A）を発行した。

飲食店、商店、宿泊施設、温泉・銭湯、レジャー施設等、9つの事業者向けに、それぞれの受け入れ体制や、トラブルとその対処法についてもイラスト付で分かりやすく表現しているので大変参考になる。

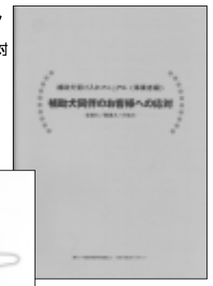
他にも『身体障害者補助犬受け入れマニュアル〈医療機関編〉』（写真B）や『リハビリテーション専門職向け介助犬マニュアル』があるので、状況に応じて利用されると効果的である。

本マニュアルは日本介助犬アカデミーのホームページからPDFファイルで見ることができる。事業者編のマニュアルはテキストデータもあるので、音声ブラウザで読み上げることもできる。

同会作成の「身体障害者補助犬啓発ポスター」（写真C）は、介助犬や盲導犬、聴導犬のそれぞれの説明が分かりやすく説明しているので、学校や職場、病院等の掲示板などに張っておくだけで自然に知識が身につく。

補助犬使用者が、いつでもどこへでも当たり前に自由に出かけることができるためには、事業者や医療機関等直接関係する方々だけでなく、多くの人達の理解が必要である。これらはすべて、日本介助犬アカデミーのホームページからダウンロードや申し込みができるので、是非一度アクセスしていただきたい。

【「マニュアル」や「ポスター」等のお問い合わせ先】
特定非営利活動法人 日本介助犬アカデミー
FAX：0422-76-2765
HP：http://jsdra.jp/
（郵送の際に送料がかかるものがありますのでご了承下さい。）



「補助犬受け入れマニュアル〈事業者編〉補助犬同伴のお客様への応対 盲導犬/聴導犬/介助犬」（写真A）

「身体障害者補助犬同伴受け入れマニュアル〈医療機関編〉」（写真B）

「身体障害者補助犬啓発ポスター」（写真C）

白内障の盲導犬に光を！「メニわんレンズ」無償で手術

加齢による老化現象の一つとも言われている白内障の手術を受ける人は、1年間に約90万人。飼い犬では約300頭が手術を受けている。

人の手術は患者の状況にもよるが、日帰りでできることが多いので、一昔前より精神的負担は少し軽くなっているようだ。

そんな中、(株)メニコンは、(社)日本獣医師会の後援のもと1999年11月1日から、白内障を患った盲導犬に対して無償で動物用眼内レンズ「メニわんレンズ」（写真1）を提供する事業をスタートさせている。

現在日本で働いている盲導犬の多くは、2歳くらいから約10年間社会の一員として働き、引退。老後はボランティアの家庭に引き取られ余生を送る。

多くの人が加齢に伴い白内障等を患うように、犬や猫などの動物も加齢に伴い白内障を患うことがある。

”今まで目の不自由な人達の目の役割を担ってくれた盲導犬に、何か恩返しはできないか”、そう考えた眼科医が、「病気などで視力を失い治療することができなかった人達の目になってくれるのが盲導犬。彼らが白内障で失った視覚を回復する手術ができるのであれば協力してあげたい」と、本田朋章さん（現(株)メニワン代表取締役社長）達に話した。

その言葉がきっかけの一つとなり、メニコンはこの事業を設立。97年に動物眼科医療の分野に参入、同年に「メニわんレンズ」を、2002年には「メニわん治療用コンタクトレンズ」（写真2）を発売し、03年には動物医療専門の(株)メニワンを分社化した。

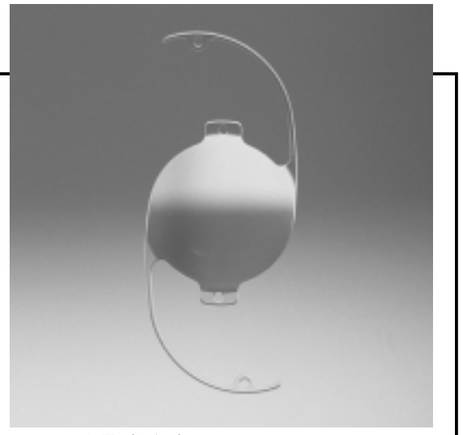
◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

不便さをかかえた人のために配慮された製品やサービス・施設等を考えるバリアフリーも大切だが、メニコンの取り組みのように、障害のある人達をサポートしてくれる盲導犬など、間接的に貢献しているものにとってのバリアフリーを考えることも重要なことだ。

最後に広告宣伝秘書部長の青田誠司さんは「メニコンの基本的な考え方は独創・創造・チャレンジです。これからも社会貢献の一つとして、この事業に取り組もうと思います」と話した。

メニコンの取り組みが、社会に新しいバリアフリーの風を生み出すことを期待したい。

「メニわん治療用コンタクトレンズ」（写真2）



「メニわんレンズ」（写真1）

【「メニわんレンズ」等のお問い合わせ先】
株式会社メニワン
〒460-0006 名古屋市中区葵三丁目21番19号
TEL：052-935-1517／ファックス：052-935-1925 ホームページ：http://www.meni-one.com

（PR）財団法人共用品推進機構☎03-5280-0020／FAX03-5280-2373
URL：http://kyoyohin.org/ E-mail：jimukyoku@kyoyohin.org